



静岡 陸協 会報

第 3 号 (2007年 9月 1日 発行)

静岡陸上競技協会
〒420-8508
静岡市葵区鷹匠1-1-1
新静岡センター 6 F
TEL・FAX 054-253-9801

浜松市立おめでとう インターハイ男子総合優勝

静岡陸上競技協会 理事長
亀山敏郎

この度インターハイに於て、浜松市立が平成七年の浜松商業以来となる男子総合優勝に輝きました。女子高校であった同校が、男女共学校になって三年目の快挙、本当におめでとうございます。選手はもちろん、学校、監督、コーチの方々の優勝への努力・精進に深い敬意を表します。全国高校新記録で棒高跳二連覇の笹瀬君、千六百リレーの優勝、四百リレー・四百リレーの渡辺君、三段跳の山崎君、あの暑さと台風の影響による競技時間の変更という悪条件の中、素晴らしい活躍でした。その他にも県勢は、トラックにフィールドに多くの選手が活躍し、県別得点でも上位を占めました。

また全国小学生陸上競技交流大会（大阪・長居）では、五年百リレー沼津陸上少年団の杉山梓さん、五・六年八十リレー障害に浜松河輪ACの鈴木杏実さん、五・六

年女子四百リレーに清水ミズノSCがそれぞれ優勝を飾りました。東海中学大会では棒高跳、男子走幅跳等多くの種目で活躍が見られました。底辺の拡大や好成績が「陸上静岡」を支える大きな力となり大変嬉しいことです。

マラソンシーズンが終わり、十九年度が三地区の県選手権予選会より始まりました。本年の大阪世界選手権、来年の北京オリンピックをめざし、本県より日本代表選手が輩出されることを願っております。スズキの池田・村上選手、棒高跳の川口・鈴木・笹瀬選手、女子短距離の中村選手、砲丸投の美濃部選手たちの活躍が期待されます。世界選手権には、本県より四十名近い中・高校生を大会で選抜し、一泊二日の日程で応援見学を兼ねた研修会を行いました。啓蒙と応援に努めたいと思ひ計画した次第です。

さて三月三日の県陸協総会に於いて、次のようなお願いを致しました。本年度も組織面では、常任理事会専門委員長会議を昨年に引き続き、年八回開催し各支部、各専門部間の連携に努め、県協会全

体の意思統一をはかりたい。その意味でも、昨年来の課題である県陸協―三支部―郡市町陸協の整備を行い、それぞれの支部のもとに加盟している郡市町陸協をはっきりさせ、それぞれの団体の代表者、所在地、その年間行事等が明確に登録されるようお願いを致しました。



1600mリレー優勝の浜松市立チーム
～佐賀・陸上競技場～
提供：静岡新聞社

登記登録については、本年よりルール改正により登記がなくなり、すべて登録に変わり、十人以上の団体登録は五人以上の登録に変わり、中学生・高校生の学校・クラブ、少年団の二重登録が認められることになりました。二重登録については、選手がいろいろな大会に参加しやすくする意味があります。特に中学校とクラブ、少年団との連絡や話し合いの必要があり、選手の所属について慎重にまた現場の指導者同志の指導権の争いにならぬよう配慮が求められます。中体連競技者の登録は、従来のように毎年変わる混乱をなくし、在学中の三年間、登録番号を変えずに競技会に臨めるようになり、全国中体連や陸連とのつながりも持てるようになります。

選手強化では、実業団ではスズキ以外

にはほとんど選手が見られず、大学生の活躍が期待される場所があります。しかし高校で活躍した選手たちが、大学で伸び悩む傾向がやや解消されてきており、日本代表や日本選手権、インカレ等で少しずつ活躍が見られるようになりました。今年も国際陸上や国体強化合宿に大学生を呼び戻し、刺激を与えたいと考えます。高校・中学については、本県は全国的に上位にありますが、県陸協と連動して指導者の講習会や練習会を、中高一貫で持つてほしいと思います。今年の東海高校の男女投擲種目の大半を三重県にとられておりますが、三重県では中高一貫の指導と練習会が、ここ数年にわたり続けられたその成果と聞いております。ぜひ他県より学ぶところは学び、良いところを取り入れる精神を持ちたいと思います。十二月から強化と高体連により投擲の指導者練習会を計画しております。普及部では、十一月に中学校を中心に練習会を計画しております。本県では、多くの優れた指導者の方々がおられますので、それを静岡県の力として活用したいと考えております。

普及については、県下のクラブ・スポーツの代表者会議を計画し、統一した陸上競技教本を作っていきたいと考えます。個人の力だけでは、指導者の高年齢化や、新しい子供達の獲得は難しい時代です。真剣に考える時期に来ていると思ひます。サッカーの指導教本やクラブの方針、父兄との連動を大いに参考にする必要がありと考へます。

広報委員会では本年度より会報の発行を年二回として、会員の皆さんに協力を

より知って頂き、静岡の陸上競技の発展に力を頂く方針です。皆さんの「声」の欄を設け、ご意見を頂きたいと思っております。

審判委員会は審判員の高齢化―若い審判員の少ない点に悩まされております。静岡大学を中心に浜松大学、富士常葉大学、日大三高校の陸上競技部の応援を今後ともお願いしなければなりません。

来年の「静岡国際陸上」の開催日はもとに戻し、五月三日に致します。場所は袋井のエコパスタジアムであります。

これは日本陸連より来年の北京オリンピック大会に、記録の出易いエコパスタジアムを使用して、一人でも多くの標準記録突破者が出るようにとの要請があり、常任委員会に諮り決定を致しました。

県中央より離れていることや、経費面・観客動員・補助員等で不安もあります。が、皆様のご協力で、伝統ある大会を初めてエコパで行いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

静岡県市町村対抗伝大会は、今年も十二月第一土曜日の十二月一日に開催致します。市町村合併が進み、今年には四十六チームが参加し開催されます。すでに一回目の説明会とコース説明会が終わり、今年から小学生女子が加わり十一区間で新しく行われます。距離は変わらず、コースも一部を除いて今まで通り県庁前スタート、草薙競技場ゴールで行います。この中から、都道府県対抗の選手も多数生まれております。今年、政令都市の静岡市が三チーム、浜松市が三チーム参加になります。

三年計画の棒高跳び支援の試みは今年で二年目となり引き続き行います。女子

および中学校の選手たちにボールの提供を考えております。

以上いろいろ述べてまいりましたが、陸上競技人口や指導者・審判員の減少の中で、静岡県の新聞社の陸上競技の記事の多さや深い内容に感謝を致すところでもあります。

平成十九・二十年度 静岡陸上競技協会役員

- 会長 齊藤斗志二
副会長 河合久光 佐橋保
- 理事長 ★亀山敏郎
副理事長 ★勝又瑛逸 (東部理事長)
★大塩正則 (中部理事長)
★和田隆保 (西部理事長)
日本陸連評議員 亀山敏郎 ★松村吉郎
兼東海陸協理事 和田隆保
- 常任理事 ★加藤 崧 ★神山心一
★仁科仁郎 ★村松義明
★鳥井啓市 ★山本 敬
★勝又富士作 福良勝己
- 理事 佐藤光司 安部六郎
渡辺直明 原田和久
眞下達雄 川口雅司
矢邊 進 瀧 義弘
岩本穰兒 片平正廣
原田洋一郎 小林 昇
若月伸元 吉川 紳
末高義美 石野吟策
山下眞里 森戸定尾
荒川 功 筒井計臣
神谷晃尚 池田 毅
佐藤和久 山城百孝

会長指名理事 高寄節子
中村 修 中西 基
山下昌彦 望月紘一
佐藤常保 石川準司

大體連理事 伊藤 宏
高體連理事 綾部信明
中體連理事 高山 登
マスターズ理事 高橋 正
監 事 林 昭仙 石上雅宏
金澤成光

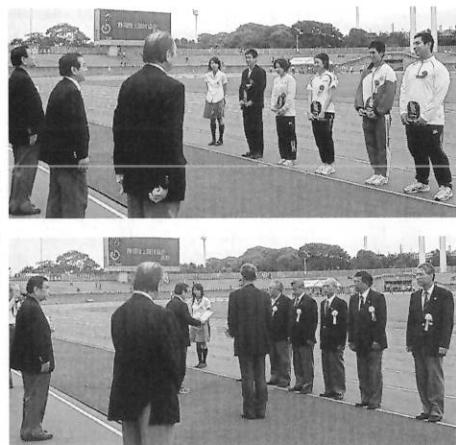
県事務局長 松村吉郎
次長 瀧 義弘 (会計担当)
各支部 矢邊進 (東部) 末高義美 (中部)
事務局長 鳥井啓市 (西部)
総務委員長 仁科仁郎
競技委員長 加藤 崧
審判委員長 草野康二
強化委員長 新聞一夫
普及委員長 石野吟策
情報システム委員長 永田勝久
施設委員長 久保田金也
記録委員長 赤堀順一
広報委員長 橋本美智夫
スポーツ科学委員長 高田 均
財務部長 中西 基

平成十九年度各栄章表彰

- 永年勤続功労者表彰 石田徳郎 (静岡市) 糸川欣司 (静岡市)
- 功労者表彰 矢邊 進 (富士宮市) 矢澤文男 (焼津市) 梶 壽雄 (富士宮市) 井口公市 (焼津市) 福嶋泰治 (浜松市) 村埜茂好 (浜松市)
- 日本記録樹立表彰 池田久美子 (走り幅跳び 6.86)

中村 宝子 (二百斤 23秒48)
鈴木 郷史 (砲丸投げ 16.70)

○優秀選手表彰 村上 幸史 (スズキ株)
池田久美子 (スズキ株)
中村 宝子 (浜松西高)
笹瀬 弘樹 (浜松市立高)
鈴木 郷史 (稲取中)



○日本陸連S級審判委嘱者 渋谷一男 (島田市) 川口和子 (沼津市) 黒田 宏 (南伊豆町) 高寄節子 (袋井市) 足立公生 (函南町) 島田悦子 (沼津市) 高橋 正 (磐田市)

○優秀指導者表彰 中嶋博和 (富士宮市) 高橋ちとせ (富士市) 神山節子 (長泉町) 石代晃司 (静岡市) 堀 義明 (静岡市) 山本康夫 (島田市) 佐藤和久 (浜松市) 高橋英輝 (浜松市) 高柳正幸 (浜松市)

○感謝状 故 井口 毅 (御殿場市) (総務委員長 仁科仁郎)

静岡国際陸上開催

平成十九年四月三十日

今年も恒例となった第二十三回静岡国際陸上競技大会が、四月三十日県草薙陸上競技場で開催された。招待選手五カ国(男女七種目)二七〇人が出場した。

本大会で、女子四〇〇m障害の久保倉里美選手が55秒71の日本新記録を樹立、優勝。また男子棒高跳びは沢野大地選手が5m75で四連覇を果たした。その他、本県では男子やり投げの村上幸史選手(スズキ)が75m61で優勝。女子一万mは同じスズキのルーシー・ワゴイ選手が31分32秒の大会新で優勝した。今回、女子走り幅跳びの日本記録保持者、池田久美子さんが表彰式のプレゼンターとして大会を盛り上げた。特に招待の小学生・中学生リレー入賞者たちは大喜びであった。



▲棒高跳・澤野選手
▲400mH・久保倉選手

今回の入場者は約六千人の陸上ファンでスタンドを埋め、各選手に熱い声援をおくった。また、メディア関係では百社をこす報道関係者が取材に訪れた。



提供：静岡市陸協清水支部 (大多和氏)

「静岡国際」に寄せて

静岡陸上競技協会 会長

齊藤斗志二



にしたこと草薙競技場において第二十三回静岡国際陸上競技大会が盛大に開催されますことは誠に喜びにたえません。

本大会は日本グランプリ第4戦で、かつ大阪での第十一回世界陸上競技選手権大会への代表選手の選考をも兼ね、男子九種目、女子八種目の競技で、選手にとっては極めて重要な大会でありますので、トラックにフィールドにおいて実のある熱戦が期待されます。

ここ草薙競技場は、記録の出る競技場として定評がありますので、今回も大記録を期待し、多くのファンが県内外よりスタンドに集まっています。特に次代を担う小学・中学・高校生は、選手の鍛えられ、磨かれた競技力に感動し、陸上競技への一層の愛着を持つことと思えます。選手諸君におかれましては、冬期において鍛えた競技力を十二分に発揮され、自己の記録の更新を期してください。終わりにあたり格段のご指導ご支援を戴いた(財)日本陸上競技連盟および関係機関・団体・企業各社の皆様方に厚く感謝を捧げあいさついたします。

実力をつけ、発揮するには

静岡陸上競技協会副会長

深澤通之助

陸協会報の編集委員長である橋本氏より「これからの静岡陸協についての提言があったら」との要旨による依頼があった。私は喜寿も過ぎ、自分が専門種目として切磋琢磨して、日本代表選手や日本選手権者になったとは言え、その記録たるや現在の高校生にも劣る当時の記録から考えて、提言できるような対策的意見などは持ち合わせていない。

しかし、若くして陸上競技の指導者に選ばれ、誰もが認める多くの大先輩に仕え、師事を仰ぐ幸運には何度も恵まれた。現在活躍されている多くの指導者や選手について、理解していただければと思いい執筆した次第である。

第四回のインドネシアでのアジア大会では、ベルリンオリンピック三段跳びの金メダリスト田島直人氏(故人)が監督、コーチ和田明氏(西部支部理事長・和田隆保氏尊父)、コーチ竹村博之氏(東京高師OB)、マネージャー高木四郎氏(中央大OB)、私と五名であった(選手四十六名)。

東京オリンピックでは強化コーチを委嘱され、前年の夏に織田幹雄監督の下、ブルガリアでのユニバーシアード大会や欧州各地を転戦した。コーチだったといえ、最年少(三十三歳)の年齢から連続して日本代表コーチに選ばれるなど、当時としては考えられないことであった。後で振り返ると欧州転戦中、ドイツ

に留学していた田島直人さんのご長男に、二週間位ご面倒いただいた、人間関係もあったと思う。

インドネシアの現地に選手団が入った折、台湾とイスラエルの不参加問題が大きな問題となり、日本の陸上競技選手団は、出場取りやめの問題で大変混乱していた。田島監督は競技人として優れていただけでなく、指導者として判断力と決断力についても、国際人らしい指示であった。「スポーツと政治は別。監督である私に従って欲しい。コーチの皆さんは、選手に動揺を与えないよう気を配ると同時に、ベストの状態で試合ができるように指導をお願いしたい。」と話された。自らの意志を明確に示し、コーチ陣や選手団に安心感を与えてくださった。

その田島監督が、若い私には良く話しかけてくれた。「深澤君、最近根性論が盛んに論議されているが、僕には良くわからない。君も知つてのとおり、私はベルリンオリンピックで世界記録で金メダリストになっている。しかしロサンゼルスオリンピックで、南部忠平さんが走り幅跳びで三位、三段跳びで優勝した時、私は六位に入賞であった。この程度の今までの練習で入賞できたのだから、四年後を目標として計画的に練習すれば、自分も優勝が可能と思える自覚ができた。」事実その後、三段跳びに必要な反対足の強化に努め、試合の当日ベストコンディションで臨むにはどうしたら良いか、努力と研究をされたとの回顧談を伺った。そして、ドイツで開催されるのであるから、競技力の向上と同時にドイツ語を勉強され、大会の総てのことが理解

できたことも優勝の原動力になったと話してくださった。若い私に答えを求めるのではなく、禅問答のようでもあった。田島さんはインドネシアの暑い部屋のベッドの横で、ドイツ語の本を読んでおられた。

晩年、中京大学に請われて、独語の教授をされている折、名古屋に新幹線で通勤される時に、東京駅でお会いしたこともあった。

時を経て、田島直人さんが言わんとしたことや、心の中でどうしたかを教えてやろうとしてみてくださいのか、遠い旅路へ旅立たれた今、お聞きすることができなくなりました。インドネシアの選手村の田島監督の部屋から出て、見上げた夜空の南十字星が、本当にきれいだった思い出とともに、「実力がなければ勝てない。根性論は笑止の限りである」と言われた、禅問答のような親しい会話が今でも心に残っている。

県陸協略史(3)

静岡陸協の再建の歩み(昭二十二年)

参与 伊藤英一

日本陸上競技連盟は、大正十四年(一九二五)三月八日に創立(会長・平沼亮三)され、東海では、地方団体として名古屋体育協会が加盟団体であった。日本陸連が、昭和七年十二月に「地方組織の充実」として都道府県単位の組織化を進めた。これにより、愛知県は昭和九年三月十一日創立し、東海陸上競技協会設立に務め翌月四月八日設立された。本県は、県体育協会の陸上部(男女)で加盟した。

この東海には、現在の四県に、山梨・滋賀が加盟していた。この年の東海選手権大会から、愛知・三重・岐阜・静岡の県対抗となった。日本陸連も戦時中の昭和十七年四月八日に大日本体育会の「陸上競技部」と改組され、国防競技が行われていた。

昭和二十年(一九四五)八月十五日に戦争が終り、日本は連合国の占領下になり、明治神宮外苑競技場も連合国に接収され「ナイルキニック・スタジアム」と改称され、日本人は使用できなくなった。本県には、九月六日米軍第一陣が、更に十月十日米軍ジュメルソン少佐が一、二〇名を率いて進駐してきた。十一月十一日進駐米軍は、静岡市呉服町静岡銀行本店を接収し本部とした。

このような時、平沼亮三氏の呼びかけで有志が集まり「陸上再建準備委員会」が生まれ、度々会議を行い、十二月九日東大での再建会議で日本陸上競技連盟が発足(会長・平沼亮三)。同時に再建記録会を開催、戦後最初の競技会が行われた。この再建会議に東海代表で静岡県体育協会主事の杉村嘉久治氏(吉田町出身)が出席していた。

翌年の昭和二十一年を迎え、中央の再建の動向から本県でも陸上競技の再建の動きとして一月十六日清水中学(現清水東高校)において、池上校長が委員長となり次の大会が協議された。

◎中部地区駅伝競走大会

- 二月二十六日(土)静岡―清水間往復コース
- 一区 清水中学 ↓ 大曲 3・42^分
- 二区 大曲 ↓ 草薙川橋 3・635^分
- 三区 草薙川橋 ↓ 護国神社 4・34^分
- 四区 護国神社 ↓ ロータリー 3・70^分
- 五区 ロータリー ↓ 護国神社 3・91^分
- 六区 護国神社 ↓ 草薙吉田橋 3・15^分
- 七区 草薙吉田橋 ↓ 小糸 3・28^分
- 八区 小糸 ↓ 清水中学 3・10^分

一般優勝・静岡陸友会(1時間33分25秒) 中学優勝・清水中学(1時間35分15秒) これが戦後最初の競技会であった。トラック競技の最初は、二月二十四日見付中学(現磐田南高校)で西部陸上競技再建記録会が開催された。この記録会後の三月三日、静岡田中屋において「陸上競技結成準備会」が開かれ、メンバーは次の方々であった。県庁 栗野正・平井行男、東部 川島邦太郎、西部 生駒定文、中部 竹原政一・天野忠司・藤田純男・風間実。これに一般民間人の鈴与の久保田安太郎の九氏が協議し、三月三十一日付にて設立することが決められた。団体名は「静岡県陸上競技協会」とした(後日、日本陸上競技連盟の規程が都道府県名は付けないということにより現行の「静岡陸上競技協会」と変更)。

協会は、再建記念の陸上競技大会を六月三十日富士中学(現富士高校)に於て盛大に開催された。この大会の八〇〇mで優勝は、現顧問の望月尚夫氏(東静岡友)2位に現東部会長の深澤通之助氏(沼津商)であった。協会は、普及事業として、東部地区(三島商業於)、中部地区(静岡農業於)、西部地区(見付中学於)の三地区で、八月二十日から二十四日にかけて、村社講平先生(ベルリンオリンピック選手)を講師に講習会を開催した。

県体育協会も昭和二十一年四月二十七日に再建された。新会長には民間から戸塚昌宏氏が就任した。

戦前、国策により「日本体育協会」が「日本体育会」に改組(昭和十七年四月八日)されたものを新団体への改組を急ぎ、関係者が度々会合を持ち、翌年の昭和二十一年一月二十三日「日本体育協会」が再建され陸上の平沼亮三氏が会長に就任した。そして全国十四会場で「スポーツ懇談会」を開き、全国大会について意見を求めた。東海では四県関係者が名古屋にて「東海スポーツ懇談会」を開催し、全国大会開催と参加の有無について協議した。

この事業の推進役の陸上の平沼、水泳の末広、ラグビーの清瀬の三首脳部により「国民体育大会」を十一月一日〜三日に、京阪神地区での開催が決まった。

☆第一回国体陸上競技選手団

(監督) 恩田周平 竹原政一 天野忠司 (庶務) 佐藤隆(男子) 大橋敏宏(見付中) 遠藤健一(富士中) 内山岩男(興津教) 赤堀政雄(日通) 仲田静夫(庵原教) 岩崎富久恵(廣瀬村) 風間実(清水中教) 渡辺利雄(井出鉄工) 高木一義(清水商船) 深澤通之助(沼津商) 上田勇吉(静岡同好会) 高木甫(静岡同好会) 渡辺芳広(岳南同好会) 河西三雄(静岡同好会) 小長井喜作(静陵会) 鈴木武夫(沼商OB) 鈴木昇(沼商OB) 山崎光男(沼商OB) 鈴木豊彦(静岡同好会) 佐藤喜代次(静岡同好会) 津田正衛(静岡同好会) 堀井亨(志太青年) 沢滝利男(光製作) 坂田利通(見付中教) 森島勝男(静岡同好会) 藤田純男(文理大OB) 和田明(早大) 天野忠司(早大OB) 沢野茂一(静岡同好会) 杉山繁(静岡同好会) 鈴

ジュニア対策に情熱を注ぐ

静岡市陸上競技協会

副会長 渥美晴雄

静岡市陸上競技協会では、数年来の課題である、中学校陸上競技部員の減少傾向に歯止めをかける方策について論議が交わされてきました。

そんな中で陸上競技スポーツ少年団設立の議案が、平成十六年度の理事会で承認され「静岡葵A.C」が次年度四月に発足しました。

静岡県陸上競技協会亀山理事長からも、静岡県の陸上競技のレベルの向上を目指すには、現役選手の強化策とともに、ジュニア対策の必要性が呼びかけられ、私たち協会と意思を同じくしていることに意を強くしました。

当初、四年生以上六十名の団員で出発した団も現在では一年生以上に枠を広げ、団員も一七〇名近くなっています。コーチは、市協会所属七名の退職者が中心となってあたっています。

①陸上競技大好き人間を育成し、中学校陸上競技部へ送る。

②気力・体力の充実した生き生きと生活する小学生を育成する。

③礼儀正しさをもち、何事にも全力で取り組む小学生を育成する。

等々を団の設立目的としています。伝統のある少年団には、まだまだ太刀打ちできないのが現状ですが、常に団設立の目標を求め練習を積んでいけば、競技力の向上は必ず付いてくるものと信じて指導しています。

年齢のこともあり、真冬・真夏の過酷

な気象条件のときは、愚痴も出るが、生き生きと活動する子供達の姿。「陸上競技が大好きになった、毎日走りたい。」という団員の声や、「陸上競技を始めたから、生活に張りが出て、学習面でも頑張りが始まりました。ありがとうございます。」という保護者の皆さんの声に励まされ、頑張っています。

競技会の申し込みのとき、一番困っているのは、ほとんどの県大会が、「一項目に出場できるのが三名」という制限です。これはリレーメンバーを決めるとき、大いに障害となっております。

協会の役員の方々にもお願いしているのですが、せめて四名の枠とならないのだろうか。リレーに出たいという子供たちの夢が実現できるようにご配慮をお願いいたします。

ホームページを立ち上げております。検索サイトで「静岡葵A.C」と入力していただければ立ち上がります。ご一読いただき、団員への励ましの言葉を「掲示板」に書き込んでいただければ幸いです。

各競技大会報告

全国高校総体

(佐賀インターハイ)

本年度インターハイ陸上競技は、八月二日より六日まで佐賀県総合運動場陸上競技場に於て行われた。

「この夏 佐賀に 君色の風が吹く」のスローガンのもと、前半の悪天候による日程変更などのアクシデントにも負け

ず、各々の活躍が見られた。

特に棒高跳連覇の笹瀬選手の日本高校新、四百メートル障害二位の渡邊選手の県高校新、そして本県として十二年ぶりとなる男子学校対抗優勝の浜松市立などの活躍には心より拍手を送りたい。なお、笹瀬選手は男子最優秀選手に選ばれた。

◎入賞選手

【男子】

- 棒高跳 優勝 (5 m 41) 日本高校新
- ・ 笹瀬 弘樹 3 (浜松市立)
- 四百メートル障害二位 (51 秒 33) 県高校新
- 四百メートル 四位 (49 秒 97)
- ・ 渡邊 諒 3 (浜松市立)
- 走高跳 二位 (2 m 12)
- ・ 小野田学登 3 (修善寺工)
- 三段跳 二位 (14 m 85)
- ・ 松下 元 3 (引佐)
- 三段跳 五位 (14 m 82)
- ・ 山崎 幸太 3 (浜松市立)
- 四百メートルリレー七位 (41 秒 42)
- ・ 藤枝明誠 天野 羽根 榎田 飯塚
- 千六百メートルリレー優勝 (3 分 15 秒 27)
- ・ 浜松市立 川崎 村越 瀧 渡邊

【女子】

- 二百メートル 二位 (25 秒 08)
- 二百メートル 四位 (11 秒 99)
- ・ 佐野布由美 3 (富士見)
- 二百メートル 五位 (25 秒 27)
- ・ 伴野 里緒 2 (浜松市立)
- 走高跳 八位 (1 m 63)
- ・ 大城 彩貴 2 (浜松商)
- 砲丸投 六位 (13 m 40)
- ・ 竹山 知佳 2 (浜松湖南)
- 四百メートルリレー六位 (47 秒 56)
- ・ 富士見 前島 佐野 武士 渡邊
- 千六百メートルリレー四位 (3 分 49 秒 47)
- ・ 三島北 中村 永井 野田 鈴木



200m2位の佐野選手 提供：静岡新聞社

◎出場選手

【男子】▽百メートル 羽根聖也 3 (藤枝明誠) 平松巧至 2 (磐田南)▽二百メートル 羽根聖也 3 (藤枝明誠) 伊堂駿 2 (浜松商)▽四百メートル 小松直人 3 (富士) 渡辺諒 3 (浜松市立) 川崎卓也 3 (浜松市立)▽八百メートル 川村将平 2 (浜松商)▽百十メートル障害 天野裕太 2 (藤枝明誠)▽四百メートル障害 若井薫浩 3 (三島北) 伏見嘉恭 3 (静岡市立) 渡辺諒 3 (浜松市立)▽三千メートル障害 近藤優希 3 (藤枝明誠)▽四百メートルリレー 藤枝明誠 (羽根聖也) 3、大石達也 3、天野裕太 2、榎田竜之助 2、加藤雅也 1、飯塚翔太 1)▽千六百メートルリ



日本高校新、棒高跳の笹瀬選手 提供：静岡新聞社

レ1 富士(小松直人3、山田秀人3、深沢史也3、内藤遼一3、斉藤光3、田口修一郎2) 浜松商(川村将平2、伊堂駿2、萩間秀作3、山本博紀3、河合利紀3、手塚絃将2) 浜松市立(渡辺諒3、川崎卓也3、村越裕太2、滝光2、鳥居秀嗣2、松本侑樹3) 走高跳 小野田学登3(修善寺工) 三浦孝宗3(修善寺工) 棒高跳 白沢領亮1(磐田農) 横山貴春3(浜松北) 笹瀬弘樹3(浜松市立) 鈴木惇也2(浜松市立) 走幅跳 松永直城2(静岡市立) 三段跳 小野祐輔3(浜松商) 松下元3(引佐) 山崎幸太3(浜松市立) 砲丸投 春田雄飛3(浜松商) 円盤投 小林由英3(沼津東) 大塚宗3(常葉橋) やり投 野毛貴寿2(三島北) 杉本和志3(藤枝明誠) 清川将貴2(新居) ハンマー投 久保田潤也3(浜松工) 加藤誠也3(浜松湖南) 八種競技 木内亮輔3(日大三島)

百リレ1 三島北(鈴木千夏3、中村葵3、久保田彩3、勝又麻理亜2、大沼紀穂2、井上彩2) 富士見(佐野布由実3、渡辺美里2、武士美沙3、川端のぞみ3、佐藤愛2、前島彩江1) 千六百リレ1 三島北(鈴木千夏3、永井綾香3、中村葵3、野田香南子3、久保田彩3、勝又麻理亜2) 浜松市立(伴野里緒2、沢口文3、森下佳織2、山内優美3、外山ありさ2、高内麻貴1) 走高跳 大城彩貴2(浜松商) 市川芽衣3(浜名) 柳谷佳澄2(浜名) 走幅跳 三輪真琳1(雙葉) 山田奈保2(浜松市立) 砲丸投 山本綾香3(浜松市立) 円盤投 鈴木和佳絵2(藤枝明誠) 今田杏子3(磐田農) 竹山知佳2(浜松湖南) 七種競技 鈴木詩織3(浜松商) 県高体連(全日制)

第四十二回 全国高校定通制陸上競技大会

もう一つのインターハイである全国高校定通制陸上競技大会が、平成十九年八月十三日(十五日)に、東京の国立競技場に於て開催された。仕事と学業を両立させる中で、練習時間を生み出し、努力を重ねた結果に心より声援を送りたい。
・入賞選手名

【男子】
円盤投 三位 伊地知雅彦(新居昼4)
五位 勝間田貴宏(小山1)
四百リレ1四位 増田 明(榛原4)
長尾知樹(榛原4)

小路弘太郎(静岡工2)
梨本勇哉(浜松大平台2)
千六百リレ1四位 池谷 怜(静岡中央1)
石井将司(沼津商2)
梨本勇哉(浜松大平台2)
良知克彦(榛原3)

【女子】

四百リレ優勝 門田美郷(榛原4)
走高跳三位 伊藤 舞(浜松北3)
円盤投四位 勝俣美沙(小山3)
八百リレ四位 門田美郷(榛原4)

男女総合 七位
女子総合 六位
女子フィールド 五位
女子トラック 七位
県高体連(定通制)

第三十四回 全日本中学陸上競技選手権大会

本年度、県中学選抜陸上(七月七日)・県中学通信陸上(七月二十一日)の大会に於いて、全日中参加標準記録を突破した選手は、八月二十日(二十三日)、宮城県で開催された全国大会に出場した。選手氏名は以下のとおりである。
・出場選手名

【男子】 水野竣3(富士田子浦)
ウイリアンモンタニニ3(浜松江西)
二百リレ 大石真功3(富士田子浦) 増田貴3(吉田) 外村丈仁3(清水七) 長谷暁3(浜松北浜) 伊藤卓3(浜松三方原) 四百リレ 大石真功3(富士田子浦) 小栗良太3(浜松北浜東部) 田島凌3(藤枝明誠) 山下永吉3(河津) 岡本圭

史3(袋井南) 川嶋久弥3(浜松雄踏) 本田和真3(湖西鷺津) 井上隼太3(伊豆中伊豆) 伊藤卓3(浜松三方原) 湯山喜生3(浜松富塚) 千五百リレ 勝亦祐太2(御殿場富士岡) 平松俊作3(静岡長田西) 山下大吉2(浜松北浜) 三千リレ 勝亦祐太2(御殿場富士岡) 柏木宏亮3(長泉北) 平松俊作3(静岡長田西) 三湯雄基3(浜松入野) 百十リレ障害 鈴木喬之3(富士宮一) 竹之隈一郎3(磐田竜洋) 萩田崇寛3(裾野西) 走高跳 小林柊也3(静岡長田西) 村田尋紀3(新居) 長沼俊貴3(浜松天竜) 正田将平3(新居) 渡辺尚樹3(静岡長田西) 笹瀬由樹2(新居) 走幅跳 猪又頌太3(浜松都田) 松原奨2(静岡東) 伊藤海3(浜松三ヶ日) 砲丸投 岡部義正3(浜松三方原) 小倉涼3(浜松曳馬) 鈴木沢実3(浜松丸塚) 高村竜麻3(浜松東部) 内山匠3(磐田竜洋) 四百リレ1 鈴木2 筒井3 佐野3 鈴木3(富士宮第一)

【女子】 菅麻衣3(清水四) 岸真衣3(御殿場) 滝井亜由美3(大井川) 奥野由布子3(三島南) 高山真里奈1(清水八) 清水香帆2(浜松積志) 杉村真希3(三島山田) 羽切優麻2(裾野西) 池谷双葉2(浜松積志) 二百リレ 滝井亜由美3(大井川) 奥野由布子3(三島南) 町田柚衣2(富士吉原一) 菅麻衣3(清水四) 福世実柚3(吉田) 八百リレ 木村友香1(静岡竜上) 田邊あかり2(浜松東部) 前田静香3(浜松浜名) 小嶋順緒3(浜松天竜) 安間光里3(磐田城山) 赤堀結衣1(磐田城山) 藤原栄梨2(浜松龍玉) 佐野知美3(富士宮四)

▽千五百円 湯田佐枝子3 (御殿場富士岡) 佐野知美3 (富士宮四) 小嶋願緒3 (浜松天竜) 藤原栄梨2 (浜松龍玉) 伊達郁美3 (裾野東) 田邊あかり2 (浜松東部) 前田静香3 (浜松浜名) 安間光里3 (磐田城山) ▽百円障害 坂口美沙希3 (三島山田) 望月優花3 (静岡豊田) 高橋智亜希3 (浜松北星) 和田なつみ2 (富士岳陽) 堀田花菜3 (三島山田) 小沢沙里花1 (浜松西高等部) 梅村萌3 (清水二) 桐山華利奈3 (浜松東部) ▽走幅跳 金崎真佐美3 (下田) 吉筋零3 (森町泉陽) ▽走高跳 石間光3 (浜松北浜) 小沢怜奈3 (浜松入野) ▽砲丸投 村瀬明日香3 (浜松三方原) 加藤尋海3 (浜松三方原) 鈴木綾乃2 (浜松天竜) 金原莉沙3 (袋井南) ▽四百円リレー 堀内3水口2坂口3杉村3 (三島山田)

〈速報〉

小林選手 (静岡・長田西中)

*男子棒高跳で優勝

雨まじりの悪コンディションの中、終始安定した跳躍をみせ、みごと優勝に輝いた。記録は4m55、本県では三年ぶりである。

小栗選手 (浜松・北浜東部中)

*男子四百円で優勝

準決勝で自己ベスト、さらに決勝でも積極的な走りをして、初優勝の栄冠を手にした。記録は50秒10

伊藤選手 (浜松・三ヶ日中)

*男子走幅跳第三位

平素の走力アップの練習も実をむすび、今回上位にくいこんだ。記録は6m74。今後7mも夢ではない。

全国小学生陸上競技交流大会

七月二十七日(二十九日、大阪長居陸上競技場に於いて開催された交流大会に、次の選手が出場した。

・出場選手名

【男子】▽5年百円 太田和希(裾野市陸上) ▽6年百円 増田大輝(小笠あすなろ) ▽5・6年八十円障害 山田健太6 (愛鷹陸上) ▽5・6年走高跳 鈴木晟也6 (浜松河輪A.C) ▽5・6年走幅跳 田原亘6 (下田敷根J.C) ▽5・6年ボール投げ 白瀧康二6 (川根小) ▽5・6年四百円リレー 中伊豆A.C (水口6・日吉6・松田6・土屋6)

【女子】▽5年百円 杉山梓(沼津陸上) ▽6年百円 建部カオリ(浜松陸上) ▽5・6年八十円障害 鈴木杏実6 (浜松河輪A.C) ▽5・6年走高跳 深澤花香6 (清水A.C) ▽5・6年走幅跳 二村有紀6 (浜松河輪A.C) ▽5・6年ボール投げ 鈴木絢子5 (麻機小) ▽5・6年四百円リレー 清水ミズノS.C (松本6・小笠原6・清水6・森6)

平成十九年度静岡県中体連陸上競技大会

◎入賞校

【男子】

- 一位 富士田子浦 二位 浜松北浜東部 三位 磐田竜洋 四位 静岡長田西 五位 浜松北浜 六位 浜松都田 七位 富士宮一

【女子】

- 一位 浜松東部 二位 浜松天竜 三位 浜松積志 四位 浜松西高中 五位 三島山田 六位 三島南 七位 浜松三方原

七位 御殿場富士岡 八位 大井川

中・高校生

世界陸上大阪大会応援・研修へ

本年度の陸協の事業として、世界陸上大阪大会へ、県内の中学生・高校生約三十人を応援を兼ね、研修のため派遣した。世界のトップレベルの選手の活躍を体感できた経験をも、これからの競技生活の向上に活かしてほしい。これも明日の「陸上静岡」を背負い立つ、若い選手への期待がこめられている。また第四号で中・高校生の感想等もお届けしたいと思います。

平成十九年度静岡陸協大会日程(後半シリーズ)

- 〔九月〕 九日(日) 東海マスターズ(エコパ) 十六日(日) 県障害者スポーツ大会(草薙) 二十九日(土)・三十日(日) 県高校新人陸上(草薙) 〔十月〕 六日(土) 県中学新人陸上(草薙) 十四日(日) 小学生陸上選手権(草薙) 〔十一月〕 三日(土・祝) 浜松中日カーニバル(浜松) 四日(日) 県高校男女駅伝(浜岡) 十七日(土) 県中学男女駅伝(エコパ) 二十五日(日) 東海高校男女駅伝(浜岡) 〔十二月〕 一日(土) 第八回市町村駅伝(県庁・興津・草薙)

編集後記

会報は今年度より、年二回発行することになりました。まず、九月一日付で第三号をお届け致します。

五月の静岡国際陸上を始め、八月の世界陸上に至るまでのトラックシーズン真最中のこの時期、締切り真際に飛び込んできたインターハイの素晴らしい結果をお届けすることができ嬉しく思っております。

来年は言うまでもなく、北京五輪が開催されます。本県からも、一人でも多くの選手を送り、「陸上静岡」を世界に発信したいものです。そのためにも底辺の拡大、系統的指導の必要性を感じます。紙面を通して多くの情報を皆様にお届けすべく、陸協事務局・編集部総力を上げて努力したいと思っております。皆様のご意見をお寄せ頂き、充実した紙面作りにご協力をお願い致します。

〔編集委員〕

- 橋本美智夫 亀山健士 内田光英 矢邊進 朝比奈洋子 松井清和

(印刷) (株)エスケイビー